

令和6年1月9日

学校だより



1月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

「わくわく」を楽しむ

校長 藤本 光子

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、新春を新鮮な気持ちでお迎えのことと存じます。美しが丘東小学校の子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとって希望に満ちたよい年になりますよう心より願っております。

さて、冬休みの前後には、子どもたちからこんな質問があります。

「サンタクロースって本当にいるの？」

素敵な質問です。冬休みの間に、サンタクロースがおうちにくるのでしょうか。私はこれを密かに「わくわく質問」と呼んでいます。この「わくわく質問」には、「『いる』って聞いたことがあるよ。」と答えます。すると、「どこにいるのか」「何歳ぐらいなのか」「忙しくないのか」と続きます。

「先生はサンタさんじゃないから、分からないな・・・」と言いつつ、

「外国に住んでいるんじゃないかな。」「ひげが長いから相当年寄りじゃないか。」

など、一緒に想像を楽しみます。ちなみに、この「わくわく質問」は低学年だけでなく、上の学年からもあります。「本当はサンタなんていないのかも」とはっきりさせたいという気持ちと「いてほしい」という願望が入り混じったような、そんな思いなのでしょう。

サンタクロースを信じる子どもは、クリスマスを「わくわく」した気持ちで迎えます。サンタクロースはいないと決めると、この「わくわく」を失います。子どものうちは、夢を楽しみ、夢を追い、とことん「わくわく」してほしいです。

私たち大人は、生活の中に悩みや苦しみ、時には悲しみを抱えます。もちろん子どもにも悩みはありますが、それでも、この仕事に携わっていると、子どもにとって、生活自体が、生きること自体が「楽しみ」であってほしい、そう願わずにはいられません。「大きくなったらケーキ屋さんになりたい」「サッカー選手になりたい」今の自分が「わくわく」することを夢にもち、楽しんでほしいです。夢を現実にするための具体的な方法については、自分で調べることができる年齢になれば調べ始めます。

こんな「わくわく質問」もあります。

「火の女神様って校長先生なの？」

4年生の宿泊体験学習の夜の一大イベント、キャンドルファイヤーでは、火の女神が現れます。火の女神は「高尾にようこそ。」と子どもたちの来訪を歓迎し、六つの大切な「火」を授けてくださいます。

「どうしてそう思うの？」

「だって、声が校長先生と同じだった。」「本当はそうなんでしょ？」

「そこが気になっていたんだね。」(ちなみに、女神といえども大した扮装はしていません。)

また、ひそひそ声で「実は校長先生だってこと秘密にするからね。」と耳打ちするかわいい子もいます。火の女神について「わくわく」を楽しむ子、火の女神の正体に気づきつつ「わくわく」を楽しみ続けた子。どちらも夢を大切に作る素敵な子。そう私は思います。

能登半島大地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。